石巻専修大学

●「石巻専修大学」ホームページ● https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

石巻専修大学
広報係
〒986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717（直）

2018年4月
創立30年を
迎えます

公立小学校教員採用試験
人間教育学科の２人 合格

指導教員とともに尾池守学長（左）に合格を報告した嶋さん（同２人目）と菅さん（同３人目）＝11月６日

あこがれの教壇に

公立小学校の教員採用試験に人間学部人間教育学科4年次の菅悠花さん（秋田県湯沢高）と嶋倫子さん（大阪府刀根山高）の2人が見事、現役で合格を果たした。菅さんは秋田県で、嶋さんは高知県であこがれの教壇に立つ。

東北6県の選考試験は同時期に実施されるため、菅さんは故郷に絞って挑戦した。競争倍率は約3倍。「模擬授業（6年生算数）が思ったようにできず、来年も頑張るつもりだった。サポートしてくれた親や先生方に合格という形で恩返しできて本当にうれしい」と声を弾ませる。

秋田県の2次試験には模擬授業や面接のほかに「日常英会話」と実験器具の取り扱いを審査する「理科実技試験」がある。どちらも東北では秋田県だけの試験科目で、菅さんは「英語の先生と会話を練習して発音や文法の間違いを直していただき、理科が専門の先生に器具をお借りして扱い方を確認できたのは心強かった」と振り返る。

大阪市出身の嶋さんは「未経験だけど漕艇をやりたくて、部と教員養成課程がある大学を探したら石巻専大でした」と笑う行動派。第一志望の地元大阪市のほか、高知県、仙台市で受験できる東京都の3カ所に挑んだ。大阪市の試験前に雰囲気に慣れておこうと全国の試験日程を調べ、見つけたのが父方の祖父母が住む高知県だった。日程が早く準備不足で模擬授業に臨んだが、課題（3年生算数・掛け算）が3年次の教育実習で担当した単元に近いなど幸運にも恵まれ、約4倍の競争を突破。「縁があったのかな」とほおを緩める。

2人は4年次の教員希望学生向け特別授業（週5コマ、無料）を受講、少人数の落ち着いた環境で学修に集中した。「学習指導案の作成や模擬授業の練習を積むことができた」（菅さん）、「小中学校で教員や校長の経験がある有見正敏特任教授から現場の話を聞けて、教員という仕事に一層使命感を感じるようになったと思う」（嶋さん）。

サークルやボランティア、学習塾のアルバイトなどでそれぞれ多くの子どもや地域の小学校の先生と接してきた。菅さんは「笑顔を絶やさず、何事にも一生懸命取り組みたい」、嶋さんは「震災や復興について学んだことを生かし、子どもの安全を第一に行動する先生になります」と話す。

自動車整備コンテスト
1位と3位獲得

入賞を喜ぶ学生と指導教員。後列左から昆野さん、菊池さん、坂本さん、岩田さん

「第32回学生自動車研究会整備コンテスト」（主催・自動車技術会東北支部学生自動車研究会）が10月21日、宮城県仙台市のトヨタ自動車東北サービス分室で開かれ、理工学部機械工学科の自動車工学コースの学生が1位と3位を獲得した。

★入賞チーム（敬称略）

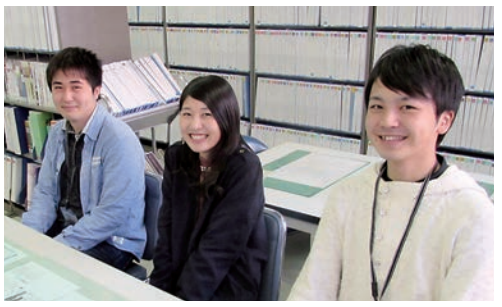
▽1位＝岩田翔太（4年次・宮城県農業高）／坂本隼人（4年次・宮城県石巻工業高）組▽3位＝菊池朴斗（4年次・岩手県専修大学北上高）／昆野悟（2年次・岩手県専修大学北上高）組

同コンテストは2人1組で参加し学科試験のほか、灯火装置回路の解析、液体判別などの4種類の実技試験を通し、自動車整備に関する知識、技術を競う。今年は本学を含め5大学16チームが参加した。

総合71点（100点満点）で1位になった岩田さんと坂本さんは「時間制限があり故障箇所をみつけるのに手間取りましたが、1位になってとてもうれしい。この結果に満足することなく、2級自動車整備士の資格取得を目指して勉強に励みたい」と話していた。

就活サポーター 後輩を応援

「気軽に相談してください」と話す就活サポーターの3人。右から内海さん、千葉さん、小國さん



企業から内定を得た4年次生が自身の体験を交え、就活や進路に関する疑問や不安に答える「学生就活サポーター」。2月末まで、就職資料室に相談コーナーを設け、3人が後輩にアドバイスを送っている。予約不要で毎週月、水、金曜日の14～16時。氏名、内定業種、担当曜日などは次の通り。

▽千葉瑛恵さん（人間・宮城県古川黎明高、保険＝月曜）▽小國隼也さん（理工・岩手県釜石高、電気機器製造＝水曜）▽内海悠介さん（理工・宮城県仙台高、レジャー・サービス＝金曜）

内海さんは「挑戦する前からあきらめない、進路支援室を活用する、といった就活の心構えを伝えたい。動画面接などの印象に残っている経験も話すので、気軽に来室してほしい」と呼びかけている。

※今後の進路支援行事

先輩たちの就職活動体験談
11月30日（木）、5号館学生ホール。就職活動を終えた4年次生27人が出席。

就活直前セミナー
2月6、7、8、20、21日の計5回開催。1年間のガイダンスの総まとめと、直前対策を行う。

就職活動総合セミナー
A班【2月17（土）・18日（日）】、B班【2月24（土）・25日（日）】の2回実施。ホテル松島大観荘で面接試験対策セミナーを行う。定員は各回30人。先着申し込み順。

「キャリア設計」開講

自己理解を深めるグループワークに取り組む学生＝10月24日

今年度から3学部の1年次生全員を対象にした「キャリア設計」が10月3日に開講した。

同科目では、卒業後のキャリアを見据え、各自が望ましい生き方、働き方をするために必要とされる力を学び、大学生活での目標、将来設計を立てるための基本的な知識、技能の修得を目指す。

10日に行われた2回目の講義では2～4年次生6人がゲストスピーカーとなり、「自己理解と大学生活の目標」をテーマに、体験を発表した。

3、4回目は「自己理解と大学生活」をテーマにグループワークに挑戦。各自の長所と短所などについてグループ内で意見を交わし、レポートにまとめ、発表を行った。

続く5回目は卒業生3人から現在の仕事の内容を聞き、社会で求められる能力を探った。今後も石巻市内で働く公務員、自営業者、サラリーマンなど社会人を招いての講演やディスカッションが予定されている。

硬式野球部 新人戦連覇

南東北大学野球連盟の新人戦（10月14、15日、福島県いわきグリーンスタジアムほか）は1、2部所属の8チームが出場。硬式野球部はトーナメントを制し、新人戦連覇を達成した。

1回戦（山形大戦）、準決勝（東日本国際大戦）はともに延長十回1―0で勝利。1回戦は川綱壽晃さん（経営2・福島県会津農林高）が完封。準決勝は盛藤城さん（経営1・福島県福島西高）、松澤寛人さん（人間1・新潟県糸魚川高）のリレーで勝利した。東北公益文化大学との決勝戦は二回裏に一挙4得点で5―0とすると、そのリードを菅野一樹さん（経営2・宮城県聖和学園高）が守り切り、6―1で快勝した。川綱さんは「優勝に貢献できてうれしい。この結果を来年につなげ、春季リーグ戦を制し、全日本大学野球選手権のマウンドに立ちたい」と語った。

学連選抜に4人が出場
杜の都駅伝

女子競走部の牧野あや主将（経営3・岩手県北上翔南高）、川崎美祈さん（人間3・山形県山形城北高）、千葉悠里奈さん（人間3・宮城県常磐木学園高）、庄司琴美さん（経営2・宮城県聖和学園高）が第35回全日本大学女子駅伝対校選手権大会（杜の都駅伝・全6区間＝10月29日、宮城県仙台市）に東北学連選抜のメンバーとして出場した。

石巻➡生田 国内留学体験記②
視野を広げるチャンスに
濱野 律さん（経営３・宮城県石巻北高）

濱野さん（２列目左から２人目）と馬場ゼミのメンバー

2年次のゼミ活動で組織について学び、専大では「企業・組織・人材の戦略的展開」がテーマの馬場杉夫ゼミへ。プレゼンテーションの練習に力を入れていると聞いていたとおり、貴重な経験を積むことができましたが、その前に待っていたのが文献の論点をまとめるレポート作り。専門書を1冊読み込むなんて初めてで、プレゼンを担当する「リーダーシップ論」を理解しようと必死でした。

「ベンチャー・ビジネス論」「経営戦略論」「マーケティング・マネジメント」などの授業、神宮球場や東京ドームでの野球観戦、山中湖（山梨県）でのゼミ合宿。何事にも意欲的で、あちこちに連れて行ってくれたゼミ仲間との交流は一生の思い出です。

何かに挑戦したいと参加しましたが、1人暮らしを経験してどれだけ親や友達に頼っていたか実感しました。国内留学は視野を広げるチャンス。参加を考えている後輩には、事前に授業を調べ、学ぶ内容をイメージしておくと充実した留学ができる、と反省を込めてアドバイスします。